

13: 成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)

1. WG メンバーリスト

氏名	所属	診療科
責任者 吉満 誠	鹿児島大学大学院 医歯学総合研究科	血液・膠原病内科学
石田 高司	岩手医科大学	内科学講座 血液腫瘍内科分野
宇都宮 與	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
加藤 光次	九州大学病院	血液・腫瘍・心血管内科
鈴宮 淳司	島根大学医学部附属病院	腫瘍・血液内科
東梅 友美	山形大学大学院医学系研究科	内科学第三講座血液・細胞治療内科学分野
中瀬 浩一	愛媛県立中央病院	血液内科
名和 由一郎	愛媛県立中央病院	血液内科
菱澤 方勝	京都大学医学部附属病院	血液内科
福島 卓也	琉球大学医学部	保健学科病態検査学講座血液免疫検査学分野
和氣 敦	国家公務員共済組合連合会 虎の門病院分院	血液内科
崔 日承	独立行政法人国立病院機構 九州がんセンター	血液内科
朝倉 義崇	日本赤十字社 沖縄赤十字病院	血液内科
中野 伸亮	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
藤原 弘	三重大学病院 血液内科 / 三重大学大学院医学系研究科 個別化がん免疫治療学分野 / 三重大学 複合的がん免疫療法研究センター	
町田 真一郎	東海大学医学部付属病院	血液腫瘍内科
澤山 靖	長崎大学病院	血液内科(原研内科)
井上 明威	熊本大学病院	血液内科
今田 和典	大阪赤十字病院	血液内科
吉田 功	独立行政法人国立病院機構 四国がんセンター	血液腫瘍内科
藤 重夫	地方独立行政法人 大阪府立病院機構 大阪国際がんセンター	血液内科
福田 隆浩	国立がん研究センター 中央病院	造血幹細胞移植科
進藤 岳郎	京都大学医学部附属病院	血液内科
徳永 雅仁	公益財団法人慈愛会 今村総合病院	血液内科
村主 啓行	京都大学医学部附属病院	血液内科
森島 聡子	琉球大学医学部附属病院	内分泌代謝・血液・膠原病内科学講座(第二内科)
友利 昌平	社会医療法人敬愛会中頭病院	血液腫瘍内科
家村 知樹	京都大学医学部附属病院	血液内科

清水 拓也	京都大学医学部附属病院	血液内科
森田 真梨	京都大学大学院医学研究科	血液・腫瘍内科学

2. 会議開催記録(2019 年 1 月-12 月)

日時	場所	会議内容
2019 年 1 月 14 日(第 23 回)	国立がん研究 センター中央 病院 セミナ ールーム A・B	「染色体異常が ATL に対する同種移植成績に及ぼす影響」の二次調査進捗状況について中野先生より報告。井上先生「ATL における移植前処置に関する検討」、徳永先生「近年の ATL における臍帯血移植の成績向上とその位置づけ」、澤山先生「ATL に対する同種移植後の感染症に関する検討」、藤先生「ATL に対する同種移植における GVHD 発症率の変化が予後に与える影響」、吉満「ATL における HLA 不適合移植」、「ATL における HTLV-1 抗体陽性ドナーからの移植についての検討」、村主先生「ATL に対する GRFS」、森島先生「ATL における HLA の意義」と各先生より、研究の進捗状況についてご報告頂いた。また、「急性白血病と比較した、ATL の移植における感染症の特徴」、「ATL 臍帯血移植における CMV の影響」、「新規薬剤時代の ATL 移植後再発患者の成績」について新規提案が提出された。(参加数 9 名/オブザーバー参加 3 名)
2019 年 3 月 8 日(第 24 回)	大阪国際会議 場 主催者控 室 10-2	「染色体異常が ATL に対する同種移植成績に及ぼす影響」の二次調査進捗状況について中野先生より報告。「ATL 移植における CMV の影響」澤山先生より AJH 誌への論文受理の報告。「成人 T 細胞白血病・リンパ腫に対する HLA 半合致移植の後方視的検討」吉満より、BMT 誌への論文受理の報告。藤先生「ATL に対する同種移植における GVHD 発症率の変化が予後に与える影響に関する検討」、徳永先生「ATL における近年の臍帯血移植の位置づけ」、村主先生「成人 T 細胞白血病に対する同種移植における、無 GVHD・無再発生存率に関わる予後因子の検討」、井上先生「成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)における移植前処置の強度・種類による移植成績の比較検討」、吉満「ATL における HTLV-1 抗体陽性ドナーからの移植についての検討」、森島先生「ATL における HLA の意義」と各先生より研究の進捗状況についてご報告頂いた。「ATL に対する自家移植」、「ATL 臍帯血移植における CMV の影響」、「新規薬剤時代の ATL 移植後再発患者の成績」「ATL の移植における合併症の特徴」の新規提案が提出された。また進藤先生より「ATL における KIR タイピング(バンク保存検体使用)」の進捗について説明された。(参加数 13 名)
2019 年 7 月 13 日(第 25 回)	名古屋第一赤 十字病院 内 ヶ島講堂 会 議室 2	「染色体異常が ATL に対する同種移植成績に及ぼす影響」の二次調査進捗状況について中野先生より報告。「ATL に対する同種移植における GVHD 発症率の変化が予後に与える影響に関する検討」について藤先生より Adv Cell Gene Ther 誌への論文受理の報告。徳永先生「ATL における近年の臍帯血移植の位置づけ」、村主先生「成人 T 細胞白血病に対する同種移植における、無 GVHD・無再発生存率に関わる予後因子の検討」、井上先生「成人 T 細胞白血病リンパ腫(ATL)における移植前処置の強度・種類による移植成績の比較検討」、吉満「ATL における HTLV-1 抗体陽性ドナーからの移植についての検討」、森島先生「ATL に

		おける HLA の意義」と各先生より研究の進捗状況についてご報告頂いた。「ATL に対する自家移植」、「ATL 臍帯血移植における CMV の影響」、「新規薬剤時代の ATL 移植後再発患者の成績」、「ATL の移植における合併症の特徴」について新規提案が提出された。また進藤先生より「ATL における KIR タイピング(バンク保存検体使用)」の進捗について説明された。(参加数 11 名/オブザーバー参加 1 名)
--	--	--

3. メーリングリストによる意見交換（メーリングリスト開設から 2019 年 12 月末時点まで） (2747)回

4. WG の今後の活動方針・抱負など

2019 年は、打ち合わせ会 3 回開催であり、論文 3 編、学会発表 3 演題であった。

モガムリズマブ、レナリドミドと新薬が開発されたが、依然長期生存を見込める治療は同種造血幹細胞移植のみである。これまで「寛解期」に「早期」に移植を行うことが有効であること、「再発期」や「移植後再発」は極めて予後不良であることを本 WG では発信してきた。2019 年には「前処置」、「ドナーソース」、「感染症」、「GVHD」、「GRFS」などの日常臨床でしばしば遭遇するクリニカルクエスチョンに対して解析を進め、学会発表、論文化が行われた。

近年移植後シクロフォスファミドを用いた GVHD 予防法(PTCY)が開発され様々な造血器疾患に対して HLA 半合致移植の良好な成績が報告されている。同胞ドナーが高齢で血縁ドナーコーディネートが困難な ATL において本方法は有望な移植法となる可能性がある。本 WG ではこれまでの「conventional な半合致移植が予後不良」であること、「HTLV-1 抗体陽性ドナー」からの移植は明らかな予後不良因子とならない可能性があることを発表し、PTCY 時代に生じるクリニカルクエスチョンに対して解析を行った。今後も ATL に対する移植治療の最適化を目指す研究がさらに必要と考えられる。ATL は希少疾患であり、世界的にみて同種造血幹細胞移植の経験は本邦に集中している。ATL-WG 内で、これまで以上に積極的な議論・意見交換を行い、ATL 移植成績向上のための情報発信を継続していきたい。